

# 高校生 ICT 2021 Conference

in 最終報告会

～テーマ～

「フェイクを見極める」

## 開催報告書

2021年12月3日(金)

【会場】： 文部科学省、内閣府、総務省（報告順）

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会  
(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、経済産業省

2021年12月8日

## 目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2021 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2021 in 最終報告会 開催概要 .....	5
4. 最終報告会 発表内容.....	6
5. 主担当 .....	11
6. 高校生 ICT Conference 2021 サミット .....	11

## 1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2021 テーマ： 「フェイクを見極める」
主催：	高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 (地域団体) ・新潟県サイバー脅威対策協議会 (新潟) ・特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川) ・長野県教育委員会 (長野) ・特定非営利活動法人公共デザインイニシアティブ (佐賀) ・大分県 (大分) ・公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分)
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、経済産業省 一般社団法人 LOCAL (北海道)、十勝毎日新聞社 (北海道)、帝塚山大学 (奈良)、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所 (奈良)、奈良県情報教育研究会 (奈良)、長崎県警察本部 (長崎)、大分県教育委員会 (大分)、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分) ＜順不同＞
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構 北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、茨城県、茨城県メディア教育指導員連絡会、茨城県教育委員会、神奈川県、神奈川県教育委員会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、大阪府高等学校情報教育研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、奈良県、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、高知県教育委員会、高知新聞、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、佐賀県、佐賀県教育委員会、国立大学法人佐賀大学 ＜順不同＞
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発綜研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、Twitter Japan 株式会社、グリーン株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会
協力：	WeWork Japan 合同会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、

	ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&amp;活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p><b>【本年開催テーマのコンセプト】</b></p> <p>ネットの無い世界は考えられなくなっている反面、ネット上には真偽を問わず情報が溢れています。災害など非常時に人の善意に付け込んだフェイク情報は、愉快犯に留まらず、恐怖心をあおり、例えば買い占めを誘引したり、人格を変質させ根拠の無いいじめにつながったりしています。</p> <p>さらに、最近では、フェイクの域を超え、実在の企業になりすました巧妙な、なりすましメールや偽の HP への誘導による犯罪も常態化しています。</p> <p>2022 年に施行される成年年齢引下げに向けて高校生の早い時期からネットの特性を理解したうえで、フェイクを見極め、事故や犯罪に巻き込まれることなく、ICT を活用するにはどうすれば良いのかを、利用実態を踏まえ、議論する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p><b>【各開催地での内容】</b> ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p>

	<p><b>【東京サミット】</b>  (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表  (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p><b>【最終報告会】</b>  (1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン)  (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	募集参加生徒 30名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30名 (各開催地により変動あり)
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p><b>【委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長)</li> </ul> <p><b>【コアメンバー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石田幸枝 (公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長)</li> <li>猪股 富美子 (お茶の水女子大学 人間発達科学研究所)</li> <li>植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事)</li> <li>小城 英子 (聖心女子大学)</li> <li>他、関係者団体、事業者等</li> </ul> <p><b>【事務局】</b>  一般社団法人安心ネットづくり促進協議会  〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階  TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

## 2. 高校生 ICT Conference 2021 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
北海道	9月12日	オンライン
茨城	10月22日	オンライン
東京	10月2日	オンライン
神奈川	9月4日	オンライン
新潟	8月19日	オンライン
石川	10月3日	オンライン
長野	10月9日	オンライン
静岡	9月19日	オンライン
大阪	9月12日	オンライン
奈良	10月3日	オンライン
高知	8月19日	オーテピア
佐賀	10月23日	オンライン
長崎	8月21日	オンライン
大分	8月22日	オンライン
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	Wework 京橋スクエアガーデン

### 3. 高校生 ICT Conference 2021 in 最終報告会 開催概要

日 時：	2021年12月3日（金）
10:00-11:00	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
14:00-15:00	内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する返答会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換
15:45-16:45	総務省にて高校生プレゼン、意見交換
場所：	〔文部科学省 生涯学習政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100 -8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1 中央合同庁舎 4号館 〔総務省 情報流通局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第2号館
テーマ：	フェイクを見極める
出席者：	〔最終報告者〕2名 【東京都】江戸川学園取手高等学校 2年 女子 【静岡県】静岡県立掛川工業高等学校 2年 男子 〔引率〕2名 【東京都】江戸川学園取手高等学校 【静岡県】静岡県立掛川工業高等学校 〔随行〕4名 高校生 ICT カンファレンス実行委員会 ・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 【文部科学省】 総合教育政策局長 総合教育政策局 主任教育企画調整官 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課長 他 計：8名 【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者： 計：3名（臨席）、この他委員はオンライン参加 内閣府、警察庁、総務省、法務省、文科省、厚労省、経産省、消費者庁  内閣府政策統括官（政策調整担当） 内閣大臣官房審議官（政策調整担当）  内閣府 参事官（青少年環境整備担当） 他 計：33名

	<p>【総務省】</p> <p>大臣官房審議官</p> <p>情報流通行政局 情報流通振興課</p> <p>関東総合通信局 電気通信事業課 他</p> <p>計：約 10 名</p>
--	---

#### 4. 最終報告会 発表内容

概要	<p>昨年度に引き続き全国 14 地域で主にオンラインによるワークショップ形式の議論を実施し、北海道、茨城、東京、神奈川、新潟、石川、長野、静岡、大阪、奈良、高知、佐賀、長崎、大分からそれぞれ代表者 1 名を選出。これに加えて、オンライン開催の特性を活かした地域を横断して参加できる全国オンライン開催の代表者 1 名を加えた合計 15 名による高校生 ICT Conference 2021 サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 2 名が、文部科学省、内閣府（青少年インターネット環境の整備等に関する検討会）総務省において、高校生 ICT Conference 2021 で得られた成果を提言として発表しました。</p> <p>最終報告の内容は主に以下の通り。</p> <p>【高校生による提言】</p> <p>『フェイクを見極める』</p> <p>11 月 3 日に行われたサミットにおいて、参加した生徒は 3 つのグループに分かれ、ネット上に溢れる膨大な情報の真偽を見極め、自身が事故や犯罪に巻き込まれないようにするだけでなく、すべての世代が安心安全に ICT を活用できる社会であるためにはどのようなアクションが必要か、様々な視点から考え話し合い、その結果を 12 月 3 日の最終報告会の提言として報告しました。</p> <p><b>（1）高校生 ICT カンファレンス 2021 サミットでの提言のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●政府と高校生による二重のファクトチェック <p>誤情報を拡散しないリテラシーを身に着けるために、政府と高校生がそれぞれファクトチェックを行うとともに、小学生など若年層にはボードゲームを作成して遊びながらフェイクについて学ぶ機会を作る。SNS を使用しない大人世代にはテレビの d ボタンを活用して注意喚起を行う。</p> </li> <li>●「知る」「感じる」「伝える」循環型リテラシー教育 <p>将来を担う高校生世代が、絵や動画などで誤情報・偽情報についての広告を行い、フェイクの存在を「知る」、実際にフェイクニュースを作る体験を通して「感じる」、小学生向けの授業を実施し自分が学んだことを他人「伝える」ことでリテラシーを高めていく。学校とネットリテラシーの専門家、高校と小学校など</p> </li> </ul>
----	--

の連携を活発に行うための「コネクター」を支援する。

●ファクトチェックの普及

誤情報を減らすためにファクトチェックを普及させる。スマホでファクトチェックを簡単に行えるアプリの開発や、官民一体のファクトチェック団体の設立を行う。

(2) 各開催地域での熟議における提言のまとめ

- ①デジタル庁主導で、ファクトチェック機関を作り、官民の相互監視と協力により偏りのないファクトチェックを行う。またファクトチェックの重要性をテレビ CM や SNS 広告などで宣伝するとともに学校でも普及啓発する。
- ②情報リテラシーに関する主体的な実践教育を導入する。具体的には高校生から小学生への循環型啓発授業、チェーンメールの訓練、ファイクニュースを分析する演習など。

(3) 文部科学省「最終報告会」感想・質疑応答

(文科省) 非常にわかりやすく組み立てられていた。今回オンラインでやり取りをした時のいいところ悪いところはどうだったか。

(生徒 A) 遠隔で同時に作業ができるのは便利だったが、声だけだと表情などが読み取れず苦勞した。

(生徒 B) 共同作業のツールとして Google スライドは強力だった。声だけだと伝わらないことが多いので丁寧なコミュニケーションを心掛けた。

(文科省) 若い人の方が知識や情報をたくさん持っていると思うので、大人にどうしてほしいか、ICT リテラシーの低い人にどう対応するか。

(生徒 A) わからないことをすぐに聞ける環境づくりが大切だと思う。

(文科省) 自分や周囲がインターネットを使う中で危険だと思うのはどのようなことか。

(生徒 A) 海外の通販サイトで買い物をしたらまったく違うものが届いたという人がいた。詐欺的网站を簡単に見分けられるようにする必要がある。

(生徒 B) デジタルタトゥーの問題。学校の先生の大学時代のブログが発見されて騒ぎになっていた。自分は気を付けようと思う。

(文科省) 低年齢者が端末を使うことが増えるので、保護者の対応について

(生徒 A) ネットリテラシーについて調べるのがネットの中。授業では教わらない。そこを体系的に学校でやるべき。

(文科省) 主体性、積極性、学びに向かう力を強く感じた。積極的能動的というワードは大切。教わるだけでなく、議論し、発表し、共有することが重要。時間や場所を超える ICT のメリットを活かしてほしい。

(文科省) 自身がこれからどういうアクションをしようと考えているか。

(生徒 A) ファクトチェック団体ができたらぜひ参加したい。

(生徒 B) ファクトチェックをゲーム感覚でやってみたがなかなか難しい。

(文科省) いろんな価値観を大事にしがら共同し、できれば数値化してみることも大切。

(文科省) こういうツールも使うのは人。なかなか真意が伝わらずけんかになることも。身近な存在が小学生や中学生に教えるのは大切なので広げていただきたい。

(文科省) どうしてフェイクニュースを信じたり、拡散したりしてしまうと思うか。

(生徒 A) 災害時など緊急性の高い場面で広がりやすいと考えている。判断する心の余裕がない時。

(生徒 B) 悪意がある偽情報は巧妙に作られているので見分けるのが難しい。

(文科省) 言葉は凶器にもなりうるので、人の心の動きの怖さや素晴らしさをテーマとして加えていただけると嬉しい

(文科省) 偽情報の見分け方は難しく悪意のある情報は相手の思考を止めてくる。また親切心で拡散される偽情報に踊らされることもある。情報モラルもリテラシーも重要だが、情報活用能力の醸成も重要。一つの形に硬直化しないこと。

(文科省) 東日本大震災でも「千葉県のコンビナートが火災を起こし、有毒ガスを含んだ雨が降る」「宮城県では警察機能がマヒしている」など偽情報が拡散された。防災教育の中で偽情報誤情報に惑わされないという要素も大切だと思った。

(引率教員) デジタルネイティブと呼ばれる今の高校生も実際には知識不足や危うさを含んでいる。これからもしっかり指導していきたい。

(米田) 今後「国際化」をキーワードに WHO の協力を得て 3 月にアジア圏の高校生と英語でカンファレンスを行う予定。

(文科省) 今日はありがとうございました。提言については正面から受け止めているところ。教育的側面（技術的な部分）としても、二人のプレゼンは心に届いた。今日のテーマは自分事として受け止めた。これから各省庁でコネクターとして情報発信していただけるものと思っている。全国の高校生の思いをまとめていただき感謝している。

#### (4) 内閣府「最終報告会」感想・質疑応答

(内閣府検討会構成員) 小学生への授業はどのようなものを考えているか。フェイクニュースの授業をするということか。他にもいろいろ課題があるので枠を広げてやっていただきたい。こういうことが必要だという授業を組み立てて私たちに提案してほしい。コネクターとしての役割を期待している。

(内閣府検討会構成員) ファクトチェックを自分たちでも行っただと思うがどの辺が難しいと感じたか。

(生徒 A) 緊急性の高い情報なのか、悪意のあるなしの見分けがつきにくい。情報のソースや情報発信の意思などを判定するのが難しい。

(生徒 B) 情報源が何かわからないので比較することになるが、対象の両方が間違

っていることがある。

(内閣府検討会構成員) 現在進行形の事案、結論が出ていない事案のファクトチェックは難しい。

(米田) 間違っただけの情報にのめりこんでしまうバックファイア効果なども意見としては出ていた。

(内閣府検討会構成員) タイムリーなテーマでとてもよかった。小学生へのリテラシー授業は高校生同士で伝え合うことと何が違うと思うか。

(生徒 A) 高校生はある程度の知識経験があるが、小学生や未就学児でも IT に触れているので、より年齢に近い高校生が指導したほうが効果的。

(生徒 B) 教える本人のスキルにもよるが、コネクタを増やすことが重要。コネクタというという職業もでてくるかも。

(内閣府検討会構成員) 教員向け研修を考えているが、高校生が講師になるのも面白い。

(内閣府検討会構成員) このようなカンファレンスに出ていない身の周りの友達のことを想像した時に、私たちと同じ考えをもってくれると考えるか。

(生徒 A) 高校生自身にもスキルの格差があるので、教育は必要。高校生でも使えない人は使えない。

(生徒 B) 全ての高校で一斉に始まるとは考えていない。コネクタが調整をして行っていく。

(内閣府検討会構成員) ギガスクールで端末が配布され、小学生にもネットに依存しがちな傾向が出てきたので、ぜひ高校生に出前授業など行ってほしい。期待している。

(内閣府検討会構成員) ぜひ一緒に教材を作っていただきたい。高校生自身がコネクタになる発想が必要。これが最終報告ではなく出発点になってほしい。

(内閣府検討会構成員) 主体的に考える教育が可能な年齢のイメージはあるか。

(生徒 A) 小学校 3~4 年くらいから、平易な形で行えればよい。

(生徒 B) 低学年向けのカードゲームができれば、遊びの延長線上で可能なのではないか。

#### ●2022 年度展開案について (米田)

コンセプト: 諸外国における高校生 ICT 利用の実情から将来を考える。

展開方法: システム運用、ファシリテーション等マニュアル化が進んだオンラインのノウハウを活かした海外との交流を実施し、諸外国における高校生の ICT 活用の実情について把握し、日本の高校生が身に着けるべき課題を探る。

WHO の協力で 2022 年 3 月に試行を計画中。

テーマ選定: 上記の展開の中で見つけた課題の中から次年度のテーマ設定をはかる。

(内閣府検討会構成員) ICT 利用についても格差が広がっている認識。すべての高校生が主体的にかかわることが理想であり、そのためにはレベルに応じたテーマを設定することも必要だと思う。

## (5) 総務省「最終報告会」感想・質疑応答

(総務省) 当課ではフェイクニュース対策を担当しており、非常に参考になった。

特に「循環型リテラシー教育」は政府としても実践したい。デジタルに強い若い世代が真剣に考え世代を超えて伝えていくことはとてもデジタル社会の健全な発展にとって重要と考える。

ファクトチェックについて、国がどの程度関与すべきかは難しいバランスが求められる問題だが、その点についてカンファレンスで議論したのであれば、どのようなものであったか。

(生徒 A) 3人で話し合った際には、幅広く意見を集めてその中で正解を導いていいということ。政府にも積極的に関わっていただきたいが、多層的で公平な議論をしたい。

(総務省) 教育委員会にいた経験から、主体的に考える教育の重要性を認識している。その意味でも生きた学びにつながる提言をしていただいたことを心強く思う。

社会でデジタルやICTリテラシーに対して困っているのは高齢者や保護者世代も同じ。デジタルネイティブ世代と言われる皆さんは、上の世代に対してもリテラシー教育を推進していただけないだろうか。

(生徒 A) 学校教育はある程度公平に教育ができるが、社会教育にそれを求めるのは難しいので提言には盛らなかった。地域や家庭を通じて広げることができるのであればやっていきたい。

(生徒 B) 若者であればネットリテラシーが一様に高いと考えるのは間違い。若い世代にも教育は必要。

(総務省) カンファレンスに参加し議論することを保護者は何か言っていたか。

(生徒 A) フェイクニュースについて(同じリソースである)ネットで調べることの危険性を指摘され、ファクトチェックは重要であると感じた。

(総務省) どんなフェイクニュースをイメージして議論していたか?

(生徒 A) 「トイレトーパー不足のニュース」や「熊本地震でライオンが逃げた」「北海道でトイレに座ったら冷たすぎて亡くなった」などが例に上がっていた。

(総務省) どんなカード・ボードゲームがあればいいかアイデアがあったら教えてほしい。

(生徒 A) ニュースの内容とそれを読んだユーザーの反応を並べてフェイクかどうか推理するようなアイデアがあった。

(総務省) よくまとまっている提言だった。フェイクニュースを作ってみて見極めるというのはユニーク。大人にとっても難しく試行錯誤が必要な領域。ゲームを作る場合は「情報発信主体が誰なのか」という視点も加えるとよいと思う。

フェイクニュースは情報の授業でどのように教わったのか?どのように教えているのか。

(生徒 A) 誤情報・偽情報といったことは教わっていないが「ネットの情報をうの

	<p>みにしてはいけない」レベル。</p> <p>(生徒 B) この情報はおかしいという授業はあった。</p> <p>(米田) 2021 年度テーマ説明・テーマ背景 (7 項目) のレベルで授業を行っている。</p> <p>(総務省) このイベントに興味を持ったきっかけはどのようなものだったか。リテラシーが低い友達にどう興味を持ってもらうか。</p> <p>(生徒 A) 担任の先生に誘われた。興味のない生徒には授業の中である程度強制的に学ばせるほうがよい。</p> <p>(生徒 B) 高校生同士でディスカッションができるのが楽しくて参加した。</p> <p>(総務省) zoom や Google スライドを使った授業などは今まで経験していたのか？</p> <p>(生徒 A) zoom による視聴などは他のイベントでも使った。Google スライドでの共同作業は初めての体験</p> <p>(生徒 B) zoom の授業はなかった。Google スライドは授業でも使っている。</p> <p>(総務省) 私はテレワーク推進の担当なので、大人も難しい新しいツールをよく使われた。これからこれが当たり前の世界になっていくのだろう。さらに頑張っていたきたい。</p> <p>(総務省) 今日はありがとうございました。堂々とした態度とわかりやすい説明の背後にはしっかりと理解されているというのがあるのだと頼もしく思う。準備も大変だったと思う。このカンファレンスは非常に重要な取り組み。私が高校の時に学んだ「情報化時代」はこのような世界を想像できなかった。これからますます変化があるのだろうが、しっかりと問題意識をもって議論することは重要。総務省は放送と情報通信を担当。フェイクニュースも問題視している。相談センターの相談件数も増加している。世の中便利になると悪いことをするのもにも便利になる。有識者で議論すると、様々な立場の「連携」「協力」が重要であるといわれる。「議論」の大切さ、世の中どのように真実が作られていくのかを知る「勉強」の大切さ。真実を作るプロセスと真実でないことを作るプロセスは裏腹である。皆さんの提言を今後の政策にも役立てていきたい。</p>
--	--

## 5. 主担当

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田	概要説明
一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	高木、松岡	事務局、撮影
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	落合	記録

## 6. 高校生 ICT Conference 2021 サミット

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田	概要説明
一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	高木、松岡	事務局、撮影
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	落合	記録

以上